

//=====

//トラック1 デスポリュカと射精しないと出られない部屋

//=====

ポリュカ

「よし。次の奴、入ってきていいぞ」

ポリュカ

「よく来たな、次はお前か」

ポリュカ

「ここに来たニンゲンにしては、随分ソワソワしているが……まあいい」

ポリュカ

「私の名は、デスポリュカ。ポリュカ様とでも呼ぶがいい」

ポリュカ

「……ほほう？ 私のことを知っているようだな」

ポリュカ

「そうだ。私は魔族……人間ではない」

ポリュカ

「この部屋に来たということは、貴様もわかっているだろう」

ポリュカ

「ここはドレミ王国の新施設『射精しないと出られない部屋』だ」

ポリュカ

「部屋で性行為をしなければ出られないが、出るときには報酬がもらえる」

ポリュカ

「最近できた施設の中では、効率よく稼げるのでな？」

ポリュカ

「通い詰めていたら、出るタイミングを見失ってしまったわけだ」

ポリュカ

「むっ……なんでそんなところに立ったままいるんだ」

ポリュカ

「こっちに來い、ちょっと遠いから話しづらいだろうが」

ポリュカ

「ふう……いや、セックスするのが面倒でたまらなくてな」

ポリュカ

「足でしごいて射精させてばかりいたら、ベトベトして歩きにくいし」

ポリュカ

「お前も気持ちよくなれば、どうでもいいタイプのニンゲンなのだろう？」

ポリュカ

「ほら、抜いてやろう。さっさとモノを出せ」

ポリュカ

「……おい、聞いているのか」

ポリュカ

「まったく。もしかして、脱ぐのが恥ずかしいなんて言わないだろうな」

ポリュカ

「こんな Hentai 王国に來て、そんな心持ちでいるとは……」

ポリュカ

「やる気満々でここに来たわけではないのか？」

ポリュカ

「他の奴らなど、恥ずかしげもなく露出して懇願してきたぞ」

ポリュカ

「『ポリュカ様あ！ 早く足でしてください〜！』とな」

ポリュカ

「……正直、それはそれでやりづらいのだが」

ポリュカ

「まあ、射精しなければ出られないからな」

ポリュカ

「お前にそのように、モジモジとされていたのでは、私だって困る」

ポリュカ

「ほら、さっさと脱げ」

ポリュカ

「……………むっ」

ポリュカ

「……いくじのない男め、脱げ！」

ポリュカ

「っ！」

ポリュカ

「ほら、そのなりでしっかりと勃起しているでは……ない、か……」

ポリュカ

「してないぞ。なんでだ」

ポリュカ

「いや、普通少しはピンと反るように大きくなっているはずなのだが」

ポリュカ

「摘まんで振っても芯を感じない、このやる気の無さ」

ポリュカ

「もしかして、同性でないと抜けないタイプか？」

ポリュカ

「うむ、違いうだろう？ 別にいいぞ、必死に否定せんでも」

ポリュカ

「それよりお前、どうするんだ本当に」

ポリュカ

「射精しないと出られない部屋だぞ。出さないと出られないんだが……」

ポリュカ

「もしかして、乳が牛のような女じゃないと満足できないとか」

ポリュカ

「それも違うか。よかった、もしそうならばき倒すところだった」

ポリュカ

「ならば、私が全裸になる、というのならどうだ？」

ポリュカ

「おっぱいだのおまんこだの、見たい見たいと騒ぐ輩も多い」

ポリュカ

「お前もその手の、即物的なモノを欲しがっているのだろう」

ポリュカ

「ほら、少しの間だけ目をつぶっている」

ポリュカ

「見られながら脱ぐよりも、期待感が高まるだろう？」

ポリュカ

「……まあ、ほとんど裸同然の格好ではあるんだが」

ポリュカ

「んっと……ふう、これで、よし」

ポリュカ

「おい、目を開けてみろ」

ポリュカ

「どうだ。一糸まとわぬ私の裸だ」

ポリュカ

「これで少しは興奮したか？ ん？」

ポリュカ

「勝手に触るなよ？ あくまで見るだけだからな」

ポリュカ

「どうした……早く勃起してみろ」

ポリュカ

「それとも、私に恥をかかせるつもりか？」

ポリュカ

「すうう、ふうううううううう……」

ポリュカ

「び、ピクリともせん……」

ポリュカ

「……お、お前。もしかして、不能だったりしない、よな？」

ポリュカ

「何故勃たん。待っている間にオナニーしていたわけでもあるまい」

ポリュカ

「……あー？」

ポリュカ

「ラブラブエッチじゃないと、射精できないって、なんだ？」

ポリュカ

「すまない、頭が痛くなってきた……」

ポリュカ

「ドレミ王国に来て、ラブラブがなんだって？」

ポリュカ

「わけがわからんのだが……」

ポリュカ

「特定の相手を求めて、こんな国に来るアホがいるとはな……」

ポリュカ

「というか、そんな性癖のクセにこんな部屋に入るなバカタレ！」

ポリュカ

「射精するまで本当に出さないぞ、この国の奴らは」

ポリュカ

「それなのに、お前という奴は……はああ……」

ポリュカ

「まあいい。しごいていれば、いつかは射精するだろ」

ポリュカ

「……なんだその、露骨にげんなりした表情は」

ポリュカ

「いいか？ 私は報酬さえ手に入ればいいんだ」

ポリュカ

「お前の恋愛ごっこに付き合うために、この部屋にいるわけじゃない」

ポリュカ

「正直迷惑……いや、そこまでは言い過ぎか」

ポリュカ

「ともかく、射精しやすいように付き合ってやろう」

ポリュカ

「ん、んんっ……」

ポリュカ

「そうだな。今だけは、お前のことを愛する伴侶のように振る舞ってやる」

ポリュカ

「告白とかした方が、勃起しやすかったりするか？」

ポリュカ

「そ、そうか。本当に面倒だな……」

ポリュカ

「急に嬉しそうにして、腹が立って仕方がないが……まあいい」

ポリュカ

「では、それっぽい雰囲気、ここは一つ……」

ポリュカ

「私は、お前の伴侶となることを約束しよう」

ポリュカ

「お前だけを愛し、お前だけを見て、お前を養ってやる」

ポリュカ

「愛している……と、毎晩ささやいてやる」

ポリュカ

「この気持ちが、愛であると理解してくれるな？」

ポリュカ

「……ふう。どうだ、これでお前も少しは興奮して……」

ポリュカ

「でっか……！」

ポリュカ

「い、いやいや、急にガチガチに硬くなりすぎだろうっ」

ポリュカ

「チョロいというか、本当は誰でもいいんじゃないか、お前……」

ポリュカ

「んぐっ！　ちょ、ちょっと待て、急に力づくでっ」

ポリュカ

「っく、この Hentai 純愛フェチめっ」

ポリュカ

「私に勝てるなどと、その思い上がり、後悔させてやるっ」

ポリュカ

「んぐっ、とっとっと、まずいっ」

ポリュカ

「せ、精液で足がすべって、んひゃあ！？」

[トラック 1 終了]

//=====

//トラック2 キス手コキで義務あま射精

//=====

ポリュカ

「おい、なんでまた萎えてるんだ」

ポリュカ

「せっかく私を犯すチャンスだったんじゃないのか？」

ポリュカ

「すううう、はああああああああああああああ」

ポリュカ

「犯すのは、純愛じゃないとでも言いたげな顔だが？」

ポリュカ

「いや、だったらこの部屋に入ってきた時点でおかしいだろ……」

ポリュカ

「純愛とは対極に位置する部屋だぞ。抜き専門だからな」

ポリュカ

「やって恋に落ちるといふのはあるが、恋しにヤリに来るなよ……」

ポリュカ

「……むう」

ポリュカ

「でもお前、本当に勃たないのな」

ポリュカ

「もはや呪いの類いだな。ここまでいきなりフニャフニャになるなんて」

ポリュカ

「手でしごこうにも……んう、んっ……んっ……」

ポリュカ

「全っ然、大きくなる気配がない」

ポリュカ

「これはまず、萎えた状態を改善させる必要があるな」

ポリュカ

「よし、いいだろう。では恋愛をするぞ」

ポリュカ

「今から私は、お前の女ということにする」

ポリュカ

「いいな？ そうしないと、出られないし」

ポリュカ

「ほら、耳を貸せ。よく聞くんだぞ？」

ポリュカ

「……好きだ」

ポリュカ

「好き、好き……好き好き好き好き、大好きだ」

ポリュカ

「私はお前の女。心も体も、お前に捧げてやろう」

ポリュカ

「他の男に触れさせる気もなかったこの体を、お前だけは好きにしてい」

ポリュカ

「だから勃起させてみろ。好きな相手に根性を見せるチャンスだぞ？」

ポリュカ

「どうだ？ 少しはムラムラして……」

ポリュカ

「……小さいまだな」

ポリュカ

「はあああ……わかった、わかったよ」

ポリュカ

「もっとこっち来い。顔を……ジッとしてろ」

ポリュカ

「んう、ん……ちゅっ」

ポリュカ

「ん、好き同士、だからな……ちゅ、むちゅ……」

ポリュカ

「んふう……ちゅ、ちゅう……ん、ちゅ、ちゅっ……んう……」

ポリュカ

「好き同士は、キスをする。そうだな？」

ポリュカ

「つえばむみたいに、んう……ちゅ……キスすれば、どうだ？」

ポリュカ

「こんなにたくさんキスするの、初めてだぞ」

ポリュカ

「これで勃たなかったら、手のほどこしようがないんだが……」

ポリュカ

「おっ、勃ってる」

ポリュカ

「少し芯が入って、握りやすくなったというか」

ポリュカ

「なんというか、わかりやすいな……お前……」

ポリュカ

「私だって特別、性経験が豊富なわけでもないんだ」

ポリュカ

「少しは協力的に、勃起してもらわないと困る」

ポリュカ

「第一、私はニンゲンじゃない。魔族なんだからな？」

ポリュカ

「ん？ ほら、魔族の手で気持ちよくなっているのがわかるだろう？」

ポリュカ

「私の手では、握るのも大変だというのに」

ポリュカ

「こんな暴力的なモノで、私を屈服させるつもりか？」

ポリュカ

「違うよな？ お前は純愛じゃないと抜けない異常者だ」

ポリュカ

「愛を感じられないと勃たないヘンタイめ。そんなに私と愛しあいたいのか？」

ポリュカ

「ニンゲンと同じような見た目、声、体……けれど、人ではない」

ポリュカ

「魔族だからな。そんな相手と子作りするなんて、正気か？ お前」

ポリュカ

「んっ……いいぞ？」

ポリュカ

「私の子宮を犯すことを、許してやろう」

ポリュカ

「嬉しいだろう？ やっぱり異常だよ、お前はそういう奴だ」

ポリュカ

「愛だの恋だの言っておきながら、結局はコレを弄ばれることに喜びを感じている」

ポリュカ

「わかるか？ お前のだらしのないモノの話をしているんだぞ？」

ポリュカ

「この、先っぽの膨らんだ真っ赤な亀頭に、小さい脳みそでも入っているのか？」

ポリュカ

「男はいつも下半身が正直で、撫でられるだけで情けない声をあげる」

ポリュカ

「気持ちいいことをして欲しい……だろ？」

ポリュカ

「お前もそうだろう？ ほら、言ってみろ」

ポリュカ

「愛がなくても、気持ちいいのが好きです……とな」

ポリュカ

「そうしたら、手を動かしてやる。気持ちいいぞお」

ポリュカ

「にちゅにちゅ、にちゅにちゅ……先っぽからこぼれた汁を竿に擦りつけて」

ポリュカ

「指がきゅう……と竿の部分に這うように、握りしめられて……」

ポリュカ

「ぬふ、ぬふ……ぬふ、ぬふ……想像しろ、私がお前のモノをしごくところを」

ポリュカ

「さっきまでお前を軽んじていた私が、懸命に手でしごいている様子はどうだ？」

ポリュカ

「犯しがいのある雌だろう？ 乱暴するに相応しい、かよわい雌だ」

ポリュカ

「さあ、どうする？ 私を犯して、精液の吐き溜めのように使ってみるか？」

ポリュカ

「すううう、ふうううううう……」

ポリュカ

「お前、本物だな……」

ポリュカ

「言っとくが褒めてないからな。最悪だ。
いっそ地獄で犯された方がマシかもしれん」

ポリュカ

「本当に純愛じゃないと萎えるのな……あああ、面倒なことこのうえない」

ポリュカ

「いいさ。こうなったら、やるしかないんだからな」

ポリュカ

「ほら、やるぞ。本当に面倒くさいが。本当に嫌なんだが」

ポリュカ

「やらんと、出られんからな……んう」

ポリュカ

「ほら、もっと勃起させろ……はむう、ちゅっ、ちゅう……」

ポリュカ

「んちゅ、ちゅっ……ふう、ふう……私一人で、本当によかった」

ポリュカ

「恥ずかしいのはともかく、んちゅ……
リリィに見られてたら殺されてるぞ、お前……」

ポリュカ

「んちゅ、ちゅっ、ちゅ……おおきくなってきた、んむう……ちゅ、ちゅ……」

ポリュカ

「しごくぞ……んう、ちゅっ……ん、ふう、ふう……あー、おっきい」

ポリュカ

「んっ、んっ……出すとき、ちゃんと言えよ？」

ポリュカ

「ふむう、ちゅう……ん、勝手にぶっかけたら、許さん……」

ポリュカ

「ふう、ふうっ……ふっ、んうう……んっ……はああ……」

ポリュカ

「暴力的だな……んっ、こんなの、私の中に入りきらんぞ」

ポリュカ

「ニンゲンじゃ相手がいないから、魔族相手というわけでもないだろう？」

ポリュカ

「んっ、んっ……あえて魔族と、んっ、ラブラブになりたいなんて、
んっ、正気の沙汰ではない」

ポリュカ

「まったく、今から本気で子どもでも作る気か？ んう、ちゅっ……んふう……」

ポリュカ

「ふう、ふう……愛を求める愚か者めっ……」

ポリュカ

「そんな奴は、さっさと射精させるに限る」

ポリュカ

「んっ……！ ふっ、ふっ……ほら、気持ちよくなってきたらうっ」

ポリュカ

「女の手でしごかれて、乱暴に扱われて、それでも気持ちいいか？」

ポリュカ

「んっ、ふうう……」

ポリュカ

「ヘンタイめっ……それでも、私は好きでいてやろう」

ポリュカ

「恋愛が下半身から始まるなんて、ニンゲンの男は本当にどうかしているな」

ポリュカ

「んっ、よかったな、私が度量のある魔族で」

ポリュカ

「お前のような好き者の相手をするなど、他の女では匙を投げるだろう？」

ポリュカ

「わかりやすいんだよ、お前。さっきからねだるみたいに私の唇を見て」

ポリュカ

「いいぞっ……ふう、ふうっ……もっとヘンタイに相応しいキスをしてやる」

ポリュカ

「口を開けろ。舌出せ……」

ポリュカ

「んへえ、れええれえ……れるう、むちゅ」

ポリュカ

「んれるう、れりれりれるれるれるれるううう……んむちゅ」

ポリュカ

「んむう、んじゅずっ、じゅるずずずずずっ、じゅぞおおお……」

ポリュカ

「ちゅぴっ、んふううう……れる、れるうれれるう……」

ポリュカ

「れへえええ……ふう、ふう、ほら、舌絡めるの気持ちいいだろう？」

ポリュカ

「愛しあっていると、深く繋がりたいくなるものだ」

ポリュカ

「もっとお前も舌を動かせ……ほら、もう一度だ」

ポリュカ

「んあむう……れう……れるれるれるれるう、んっんっ」

ポリュカ

「んむう……へえれえれええ……にちゅにちゅにちゅにちゅ」

ポリュカ

「ちゅばあ、へえ、へえれえ……れるれるれるう……」

ポリュカ

「んへえ、れるむう……ちゅううううううううう……」

ポリュカ

「んっ、はああああ！ ふう、ふうっ……ほら、手え早く動かすぞ」

ポリュカ

「んっんっんっんっ、ほら、竿がヒクヒクしてもどかしそうだ」

ポリュカ

「舌を絡めるキスされて、たまらなくなっただろう？」

ポリュカ

「いいぞいいぞ、このまま私に精液びゅるびゅるかけてみろ」

ポリュカ

「ふっふっ、ほら、ちょうどお腹の下……」

ポリュカ

「子宮にあたる場所に、近付けてやろう」

ポリュカ

「私を妊娠させるつもりで、このままお腹にぶっかけてみるといいっ」

ポリュカ

「出すところ見てやる……ふう、ふう……」

ポリュカ

「お前の、大好きな男の射精するところ、間近で見てるぞ？」

ポリュカ

「あ～……出そう出そう、出そうだ……」

ポリュカ

「私がイケと合図するまで我慢するんだぞ？」

ポリュカ

「そうしたら絶対に気持ちいいからな。カウントダウンだ」

ポリュカ

「ゼロの代わりに、イケと言ってやる」

ポリュカ

「ほ～ら、それまで我慢我慢。いくぞ～」

ポリュカ

「ごお……ふう、ふう……」

ポリュカ

「よんっ……」

ポリュカ

「さ～ん……ふう、ふう……」

ポリュカ

「に、にい……あとちょっとだ、我慢してろ……」

ポリュカ

「いっ……ちい……！」

ポリュカ

「イケ」

ポリュカ

「イケ、イケ……ん、ほら……好きなだけ私にぶっかけろ」

ポリュカ

「出せっ……出せ出せ出せ出せ、カラになるまで射精しろ」

ポリュカ

「んっ……んっ、ふううう……ふう、ふう……」

ポリュカ

「すごいな。射精の量は人並み以上だ」

ポリュカ

「ようやく出せて、少しは満足できた、という顔か？」

ポリュカ

「ここまでしなければ射精出来ないとは、可哀想なやつめ」

ポリュカ

「だが、まあそうだな」

ポリュカ

「よく射精した。えらいぞ」

ポリュカ

「おっ」

ポリュカ

「手でしごいただけで終わりでもいいということか」

ポリュカ

「これで部屋のロックも解除された」

ポリュカ

「ということで、だ」

ポリュカ

「私もこれで、晴れて自由の身になったわけだよな？」

ポリュカ

「ふうう……では、遠慮なく一発」

ポリュカ

「はあっ！！」

ポリュカ

「この大馬鹿者が！ そんな難儀な性癖で、この部屋に入る阿呆がどこにいる！」

ポリュカ

「今回は仕方なく付き合ったが、なんかムカついたから
とりあえず一発殴らせてもらったぞ」

ポリュカ

「私だからまだなんとかなったが、
次からはもっとマシなアトラクションに入れっ」

ポリュカ

「もう来るんじゃないぞ、面倒くさいやつめっ」

ポリュカ

「まったく……ニンゲンというのは本当にわからん……」

[トラック2終了]

//=====

//トラック3 ポリュカにおねだり搾精フェラチオ

//=====

ポリュカ

「来るなと言ったよな、お前……」

ポリュカ

「すううう、はああああああああああ」

ポリュカ

「本当に面倒な奴だ。またあんな真似をしてまで射精させるのは嫌だぞ、私は」

ポリュカ

「純愛だかなんだか知らないが、お前の趣味趣向に振り回される身にもなってみろ」

ポリュカ

「……ん？ ああ、私か？」

ポリュカ

「私は最近ずっとここに通い詰めだな。あと少しで報酬を集め終わるところだ」

ポリュカ

「別にお前に会いたくて、ここに通ってるわけじゃないんだからな？」

ポリュカ

「報酬がいいから通っているだけだ」

ポリュカ

「いや、本当に。ツンデレ？ よくわからんが、それではないと思うぞ」

ポリュカ

「いやいや違いますよね！ みたいな反応されても困る」

ポリュカ

「……だって、他より楽に稼げるし」

ポリュカ

「お、おいおい……また勝手に萎えてるのか……」

ポリュカ

「落ち込むなバカタレ。お前の思うとおりに全て進むわけないだろう」

ポリュカ

「いいか？ よ〜く聞け」

ポリュカ

「愛だの恋だの、そういった感情を、よく知らん相手に押しつけてはいかん」

ポリュカ

「お前は私のことをどれだけ知っている？
この場所以外で会ったことはないはずだ」

ポリュカ

「……たまーに会ったことある奴もいるから、確認が必要だったりするんだが」

ポリュカ

「コイツも、魔族であることを知っているようだったし。気が抜けん」

ポリュカ

「ともかく、そんな相手といきなり相思相愛というのは、無理な話だろう？」

ポリュカ

「互いのことを知って、その上で結ばれるのが普通というかな……」

ポリュカ

「どだい、私とお前では結ばれるのは絶対に無理……」

ポリュカ

「とでも言いたいところだが！ 射精はしてもらわなければ困る！」

ポリュカ

「頼むからさっさと射精してくれ。部屋を出られないのが一番つらい」

ポリュカ

「今日も手でしごけばいいな？」

ポリュカ

「おい、キスするぞ。早く勃起させろ」

ポリュカ

「んう、ちゅ……ちゅ、ちゅ……ん、ふう……」

ポリュカ

「相変わらず、なよなよとしているな。お前のモノは」

ポリュカ

「早く大きくしろ……んちゅ、ちゅうううう……んちゅっ」

ポリュカ

「ふっふっ、ふっふっ、んう、ふっふっ……んううう……！」

ポリュカ

「い、いかん。なぜ勃たんのだ」

ポリュカ

「前回と同じように愛しあっているつもりなのだが……ううむ」

ポリュカ

「一応確認なんだが、拗ねてないよな？」

ポリュカ

「もしくは、ずっとこの部屋に私を拘束することが目的とか」

ポリュカ

「まさか帝国の回し者……な、わけないか。流石に情けなさ過ぎる」

ポリュカ

「はあああ……本当に困ったものだ」

ポリュカ

「倒せばどうにかなる相手でもないのが、なあ……」

ポリュカ

「まあいい」

ポリュカ

「私ばかり頑張るのも癪だ。お前もなんとかしてみせろ」

ポリュカ

「どうだ……その、触るか？」

ポリュカ

「胸とか……んうっ」

ポリュカ

「ふう、ふう……手つきがいやらしいの、腹が立つな」

ポリュカ

「乳首をねぶるように、指で転がして……んうっ」

ポリュカ

「私は期待するほどの反応を、見せることはできないからな」

ポリュカ

「んう、んっ……んううう……」

ポリュカ

「んあっ、バカっ、このっ……乳首、引っ張るなっ」

ポリュカ

「うっ、うっ……ふう、ふう……」

ポリュカ

「っ、なんだ、今度は尻か？」

ポリュカ

「ふぐっ……うう……両手で、揉むなあっ」

ポリュカ

「そんなに触ったところで、くっ……意味はないぞ」

ポリュカ

「そんなことより、早く勃起して出せ。精液、吐き出してみせろ」

ポリュカ

「っ、つぁ……あっ……んう……」

ポリュカ

「ふはぁ……はぁ、はぁ……どうだ、満足か？」

ポリュカ

「これでお前のモノも硬く雄々しく男らしく……」

ポリュカ

「な、萎え散らかしているではないか……」

ポリュカ

「お前、握りつぶされたいのか？」

ポリュカ

「早く勃起しろ。射精してみせろ、朴念仁」

ポリュカ

「女の体を玩具のように触るだけの情けない男め」

ポリュカ

「はぁぁぁ……もういい、少し休む」

ポリュカ

「どうせお前も緊張しているだけだろう」

ポリュカ

「落ち着いた頃には、射精したくなるかもしれん」

ポリュカ

「お前も座って、気を落ち着けるといい」

ポリュカ

「……ん？　なんだ、改まって」

ポリュカ

「……んむうっ」

ポリュカ

「お、おい、何の真似だ。私の顔に、お前のモノを押しつけて……」

ポリュカ

「んあ、んっ……んううう……！　お、おい、やめ、ろっ……」

ポリュカ

「んっ……んっ……！」

ポリュカ

「芯のないちんぽで頬を叩くとは、随分調子のいいことだ」

ポリュカ

「こんなお遊びで、問題が解決できるなら、やれるだけやって……み、ろ……」

ポリュカ

「で、デカイ……前回よりも、ほんの少し」

ポリュカ

「あ、あのなあ。これが純愛とでも言うつもりか？」

ポリュカ

「お前、ただのワガママなだけじゃ……んう！」

ポリュカ

「んう、うっ……くそ、人の顔に擦りつけて満足そうに」

ポリュカ

「あんまり調子に乗っていると、んう、嘔みついてやるからな」

ポリュカ

「というか、酷い匂いだ。顔がちんぽ臭くなる」

ポリュカ

「これで射精まで擦り続けるのは、正気じゃないぞ」

ポリュカ

「……えー？」

ポリュカ

「舐めるのか？ これを？ 口に入れる？」

ポリュカ

「さ、最悪だ……これを啜えないと出られないとか、拷問だぞ」

ポリュカ

「んえ、えあああああ……」

ポリュカ

「口の大きさとモノのサイズが合わん。いけるのか……？」

ポリュカ

「舐めてる最中に乱暴したり、萎えたらちゅん切るからな」

ポリュカ

「ん……では、最初はどうすればいいかなんとかで指示してくれ」

ポリュカ

「まずは、キスから……」

ポリュカ

「んう、ちゅ……ちゅっ、先っぽに、優しく……」

ポリュカ

「ちゅっ、むちゅ、ちゅうううう……ん、ちゅ……」

ポリュカ

「少し、ヒクついているな」

ポリュカ

「いいぞ、この後はどうすればいい？」

ポリュカ

「おお……ほ、頬ずりしながら舐めればいいのか」

ポリュカ

「まあ、そこから見ている……んう……」

ポリュカ

「んっ、んう……れえ……れえる、ちゅむ、んう、んう」

ポリュカ

「この前よりも、んう、ガチガチだな……れる、れえれえ……」

ポリュカ

「んむちゅ、ふうう……れる、れるれるう……れえ……」

ポリュカ

「れえ……へえ、へれえれえ……ちゅううううう……」

ポリュカ

「んちゅ、むちゅう……ん、ほら、裏側も」

ポリュカ

「へえ、れりれりれりれりれるれるううう……」

ポリュカ

「んえれえれえれえれえ……じゅずずずずう」

ポリュカ

「んふう、ふう、れるれるれるれるう……」

ポリュカ

「んふ、ふう、ふう……ここらだと、だらしなない表情が丸分かりだ」

ポリュカ

「お前のモノに比べると、私の顔も舌も小さくてもどかしいだろう？」

ポリュカ

「ふう……よし、いいか？」

ポリュカ

「これから、先っぽを口いっぱい頬張ってやろう」

ポリュカ

「想像しろ。お前のちんぽがゆっくりと私の口に含まれる」

ポリュカ

「熱くてネトネトした感触が、先っぽからピリピリと
全身に快感として伝わって……」

ポリュカ

「裏筋を舌でなぞりながら、頬の内側に何度も擦りつけるように咥え込む」

ポリュカ

「口の中の柔らかい肉の感触に包まれながら、鈴口も舌でほじられて」

ポリュカ

「その間、今みたいに手で竿をしごきながら、射精させてやる」

ポリュカ

「想像出来たか？　するぞ？」

ポリュカ

「んう、ふうう……ああ、先っぽから汁がこぼれてきた」

ポリュカ

「れえる、むちゅ」

ポリュカ

「んぐんぐ……ごくん」

ポリュカ

「では、啜えるぞ……んええええ……」

ポリュカ

「へえ、れあああむう……んぐむう」

ポリュカ

「んむう、ふむ、んもあう……んむ」

ポリュカ

「んちゅ、ちゅずずずううううう……ちゅばあ！」

ポリュカ

「ふっ……先っぽ、気持ちいいか？」

ポリュカ

「はあむ、ちゅううう……ちゅばあつ、あむう、はむう……」

ポリュカ

「ちゅううううううう……じゅず、じゅるるるう……」

ポリュカ

「ちゅばあ……はあ、はあ……ふう……」

ポリュカ

「次は、先っぽを舐め回して……」

ポリュカ

「はあむう……れるれるれるれる、れるうんむう……」

ポリュカ

「んちゅ、じゅずっ……んふううう、すうううう」

ポリュカ

「れるれるれるれるれるれるれるれるうう……」

ポリュカ

「にちゅにちゅにちゅにちゅ、んふうう……」

ポリュカ

「もっと、いっぱい……むちゅ、舐め回すように」

ポリュカ

「んれえっ、んれえ、れるれるれるうう……すうううう」

ポリュカ

「ふう、すう、ふううううう……」

ポリュカ

「ずじゅるるるるるるるるるるるうう……ちゅぱっ」

ポリュカ

「ん、ふう、ふう……おい、腰を動かすな」

ポリュカ

「わかった、わかった！ 口に入れて動かしてやる」

ポリュカ

「その代わり、出るときはちゃんと出ると言えよ？」

ポリュカ

「本当に面倒な奴めっ……はあむっ」

ポリュカ

「んむう、んっ、んっ……んっ、んっ……」

ポリュカ

「んちゅう、れるれるれるっ、手も動かすぞっ」

ポリュカ

「んぐっ、んっんっんっんっ、んむう、んっんっ」

ポリュカ

「んむう、んっんっんっ、んんううううう、すううう、」

ポリュカ

「んふっ、んっんっんっ、んんううううう……」

ポリュカ

「じゅずるるるっ、うふ、垂れるっ……んぐっ、んっんっんっ」

ポリュカ

「んむう、ふはあああ……れるれるれるれるれるれるう」

ポリュカ

「鈴口を舌先でほじくり返してやる……れえええええ」

ポリュカ

「ねりねりねりねり、れえれえれえれえ……ふふ、たまらんという顔だなっ」

ポリュカ

「ふっふっふっふっ……よし、このまま射精してみせろ」

ポリュカ

「はあむっ、んっんっんっ……」

ポリュカ

「ほら、早くするぞっ……んっんっんっんっ、んっんっ」

ポリュカ

「んふう、じゅずるるっ、んむううっ、んっんっ、んっんっ」

ポリュカ

「ほら、んむう、出せっ、んっんっんっんっ……」

ポリュカ

「口に、いいから、全部っ、んっ、んむううううううう……！」

ポリュカ

「んぐっ……ぐっ、うぷっ……んぐんぐんぐんぐんぐ～……」

ポリュカ

「うぷっ、うっうっうっうっ、んう、うっうっうっ」

ポリュカ

「ぷふあ、はあ、はあっ出るのか、んっんっ、いいぞ、このまま出せっ」

ポリュカ

「あむう、んっんっんっんっんっんっ」

ポリュカ

「んっんっんっんっ、出せ、出せ、んっんっんっんっ」

ポリュカ

「こいつ、んうううっ……！ んっんっんっんっんっんっんっ……！」

ポリュカ

「んぐっ、んむう！？」

ポリュカ

「んっく……ん、んむううううう……んっ、んっ……」

ポリュカ

「れるう、ちゅぞっ……ずぞぞぞっ！　ぞじゅるるるるうう！」

ポリュカ

「はむう、あむう……じゅぞぞぞ！　じゅるるるるるううう！」

ポリュカ

「んっ……じゅるっ……んむう……ちゅうううううう……」

ポリュカ

「ぬぷっ……ふう、ふう……ん、ふはああああ……」

ポリュカ

「どうだ、全部出たぞ」

ポリュカ

「はあむ……くちゅくちゅくちゅくちゅ……」

ポリュカ

「んああああ……これで、終わりだ」

ポリュカ

「んむう、くちゅくちゅくちゅくちゅ……ぺっ！」

ポリュカ

「ぺっ！　ぺっ！　すううう、ふうううううう……」

ポリュカ

「よし、満足したな」

ポリュカ

「うう……口の中が精液臭い……」

ポリュカ

「ん？　別に出されたモノを飲む必要もないだろう？」

ポリュカ

「こんな量飲まされて、腹でも壊したらどうする」

ポリュカ

「それに、お前の子種を大切に扱うわけがないだろう」

ポリュカ

「だってお前、私の扱い雑だったからな」

ポリュカ

「むしろ献身的に啜えてやったことを喜ぶといい」

ポリュカ

「それでもまともに付き合ってた方だぞ」

ポリュカ

「まったく……感謝こそされど、文句を言われる筋合いはない」

ポリュカ

「もういい。お前と何度もこんな目に遭うようでは、たまったものではないからな」

ポリュカ

「私は別の施設へ行く。もう会うこともないだろうさ」

ポリュカ

「ではな。お前もその性癖、大概にするんだぞ……」

ポリュカ

「……っ、くっ！」

ポリュカ

「おい、なんだ？ まだ文句でもあるのか？」

ポリュカ

「無理やり引き留めるなんて、ずいぶんと強引じゃないか」

ポリュカ

「……っ！」

ポリュカ

「……で、でかい。ラブラブえっちじゃないと抜けないんじゃ、ないのか？」

ポリュカ

「フェラで満足できず、今度は私に無理やり挿入でもしようということか」

ポリュカ

「私を力尽くでどうにか出来そうだとでも？」

ポリュカ

「お前、調子に乗るのもそこまでだぞ」

ポリュカ

「私は魔族だと、お前だってわかっていたはず……んう！」

ポリュカ

「強引に私を犯すつもりなら、覚悟するんだな」

ポリュカ

「来るがいい。満足するまで相手してやる」

[トラック3終了]

//=====

//トラック4 腰へコ素股の疑似えっち

//=====

ポリュカ

「いや、だから勝てるわけがないだろ……」

ポリュカ

「経験の差が大きすぎる。お前と違って、私は数々の死線をくぐってきた」

ポリュカ

「裸なだけの、大して鍛えてもいないニンゲン相手に、遅れを取るわけがない」

ポリュカ

「ッ！ こんな風に、な」

ポリュカ

「腰の上に乗られて、動くのもままならないだろう」

ポリュカ

「精一杯、腰を動かしながら逃げてみろ」

ポリュカ

「ふっ、ふっ……！ ほら、根性出して動け」

ポリュカ

「ん、どうだ。抵抗できないか？」

ポリュカ

「んあっ」

ポリュカ

「……別に、胸を触られようが、変わらないさ」

ポリュカ

「んっ、ほら、逃げてみろ。それとも中に入れてみるか？」

ポリュカ

「完全に押さえ込んだ。お前に勝ち目はないよ」

ポリュカ

「すううう、ふううううう……」

ポリュカ

「まあ、アレだ。いつかいい相手が見つかるさ」

ポリュカ

「私ではなく、ドレミ王国で探すでもなく、真っ当に相手を見つけれ」

ポリュカ

「いいな？ では、私は今度こそ仲間の元へ帰らせてもらう」

ポリュカ

「……あっ」

ポリュカ

「今の音、まさか……おい、嘘だろ」

ポリュカ

「おい！ 開けろヘンタイども！ とっくに射精させたぞ！」

ポリュカ

「私は出ると言ってるんだ、おい！」

ポリュカ

「すううう、はああああ……さ、最悪だ」

ポリュカ

「お前の相手をしていたら、再び扉が閉まったじゃないか」

ポリュカ

「あんな面倒なフェラをやり直さないといけないなんて……」

ポリュカ

「ほら、気合い入れ直せ。もう一度やるぞ」

ポリュカ

「……お、おい。ふぬけ、しゃんとしろ」

ポリュカ

「事務的に射精させられるのが、そんなに嫌なのか？」

ポリュカ

「それとも、男としての尊厳を傷つけられたとでも？」

ポリュカ

「……面倒な奴だなあ」

ポリュカ

「ああ、もう！ わかった！ わかったから！！」

ポリュカ

「セックス、させてやる」

ポリュカ

「使い込んでないから、気持ちいいかは知らんぞ？」

ポリュカ

「多少乱暴でも、耐えられる体の作りはしている」

ポリュカ

「ほら……見ろ……」

ポリュカ

「指で開いたところ。ニンゲンの女と一緒にだ」

ポリュカ

「この穴に挿入すれば、問題なくセックスできるはずだ」

ポリュカ

「お前、さっきやりたくて私を押し倒したんじゃないのか？」

ポリュカ

「お望み通り、抱かれてやる。さっさと入れてくれ」

ポリュカ

「……嫌か？」

ポリュカ

「ああ、違うな……またその性癖のせいで勃たんのだなっ」

ポリュカ

「さっき犯そうとしたのに？ アレがセックスのおねだりなら、
ただの強姦魔だぞっ」

ポリュカ

「うう……コイツ、面倒くさいし間抜けだしで、本当に……」

ポリュカ

「はああああ……まあいい、やることは変わらん」

ポリュカ

「いいんだ。似たような仲間が私にもいるものでな」

ポリュカ

「こういう時は、こっちで決めてサクッと終わらせてしまうに限る」

ポリュカ

「んう、っしょ、っと……」

ポリュカ

「お互いの性器を、すり合わせるように……」

ポリュカ

「んう、ふう……ふう……ふう……」

ポリュカ

「これなら、どうだ？」

ポリュカ

「裏筋に、私の股が擦れているのが、わかるだろう」

ポリュカ

「熱くてヌルヌルしているのは、体質だ」

ポリュカ

「こうして、んっ……何度も腰を動かして、と……」

ポリュカ

「んふう、ふっ……ん、ジンジン、するな」

ポリュカ

「んうう……うう……あんまり、こちらを見るんじゃないっ」

ポリュカ

「くそっ、ふう、ふう……もう少し我慢が効くと思ったが」

ポリュカ

「この体は、まったく感じないわけでもないらしい」

ポリュカ

「ふはあ、はあ、はあ……ふうう……」

ポリュカ

「ん？　なんだお前、ニヤニヤと嬉しそうに」

ポリュカ

「私が気持ちよく……なっているつもりはないのだが、それがたまらないとでも言いたげだな？」

ポリュカ

「立場も忘れて、ずいぶんとのんきなものだ」

ポリュカ

「いいだろう。少し罰を与えてやる」

ポリュカ

「今から、お前のモノをナカに入れてやる」

ポリュカ

「だが、入れるのは先っぽだけだかな？」

ポリュカ

「んう、んっ……っく、ふう……ふう……」

ポリュカ

「私はこれ以上の挿入を認めん。つまり、お前が腰を動かしたら、それはレイプと変わらん」

ポリュカ

「どうだ、え？ 亀頭が膣に包まれる感触はたまらないだろう？」

ポリュカ

「腰を動かして、狭くキツイ私の穴を拡張したいとは思わないか？」

ポリュカ

「私は、それを、許さない」

ポリュカ

「亀頭だけ、ナカに入れて気持ちよくしてやろう」

ポリュカ

「ほら、いくぞ……んあっ、うっ……うう……」

ポリュカ

「ふう、ふう……気持ちよさそうな顔が、丸見えだ」

ポリュカ

「お前、本当は建前なんだろう……んう、んっ、んっ……」

ポリュカ

「本当は、犯して穢して辱めて、精液を塗りたいクセに」

ポリュカ

「んうう、うっ、うううう……」

ポリュカ

「粘ついた精液で、私を汚してしまいたいだけに」

ポリュカ

「ふう、ふう……建前ばかりで、男らしくない」

ポリュカ

「ほら、腰振るぞ。射精こらえろ」

ポリュカ

「ふっ、ふっ、ふっ、ふっ……ほら、もうセックスしてるのと変わらんだろっ」

ポリュカ

「ラブラブだろうとなんだろうと、所詮貴様は
私で射精したくてたまらんだよっ」

ポリュカ

「んあっ、あっ……うっ、うっうっうっ……ふううううう……」

ポリュカ

「ふう、ふう……すううううう……」

ポリュカ

「このまま、ナカに出してくれないか？」

ポリュカ

「ここまで入れたら、もうすることは一つだろう」

ポリュカ

「お前が腰を押し進めたら、私が膣を締めあげてやる」

ポリュカ

「ほら、ちょっぴり腰を動かしてみろ……」

ポリュカ

「んあっ！ んっ……」

ポリュカ

「どうだ？ セックスしたくなってきたろう？」

ポリュカ

「さあ、このままナカに……ほら、入れてくれ」

ポリュカ

「それとも、私が腰を押し込んでやろうか……こーやっ、って」

ポリュカ

「んぐっ……うう、このっ……んっ、んっ……！」

ポリュカ

「柔らかくて、なかなか入らんっ……んぐうううう……！」

ポリュカ

「んう、はあ……はあ、はあ……は、入らんではないか」

ポリュカ

「ラブラブじゃないのが、透けて見えたとしても言うつもりではないだろうな？」

ポリュカ

「こちとら本気でねだってみせたというのに」

ポリュカ

「あ、いや……もちろんお前と結ばれるつもりはないが……」

ポリュカ

「っ、わかったわかった！ もう本音を言うのはよしてやる！」

ポリュカ

「仕方あるまい。らしくはないが……まあ、仲間が見ていないところだ」

ポリュカ

「真面目に、お前の相手をしてやる。それで満足するんだな」

ポリュカ

「しなかったら殺す。いいな？」

ポリュカ

「入れられんから素股でいいな？　いくぞ」

ポリュカ

「んしょ、っと……ふう、ふう……」

ポリュカ

「あんっ、あん。気持ちいいぞ～」

ポリュカ

「くっ……なんで私がコイツに腰を振らないといけないんだ」

ポリュカ

「いや、なんでもない……ふう、ふう……」

ポリュカ

「あん、ああんっ。お前は、たくましいなあ～」

ポリュカ

「よくできた男だ～……ふう、ふっ、んうう……」

ポリュカ

「っ、んあっ！」

ポリュカ

「……い、いや、なんでもない。クリトリスに擦れて、驚いただけだ」

ポリュカ

「いいから、腰振るぞ……んううっ」

ポリュカ

「んうっ、んっんっ、んっんっ……ふう、ふう……」

ポリュカ

「んあ、あっ……んうう……ふう、ふう……んっ……」

ポリュカ

「クソッ……体の感覚が、妙に敏感になっている」

ポリュカ

「顔見たら、殺すからなっ……んう、うううう……！」

ポリュカ

「んはあ……はあ、はっはっはっ、ああああ……」

ポリュカ

「熱っ、い……いああああ……はあ、はあっ、はふ、ふう……！」

ポリュカ

「これでは、本当に人間の女のように、発情して……」

ポリュカ

「ふあ、あっあっ……あっ、んむううう！」

ポリュカ

「ち、違う、気持ちよくなってなど、いないからなっ」

ポリュカ

「生理現象と気の迷いで、顔が熱くなっているだけで」

ポリュカ

「……んっ！」

ポリュカ

「お、おい……バカみたいに硬くしているではないか」

ポリュカ

「このままなら、出そうか？ そうか、そうか……」

ポリュカ

「なら、このまま私の尻を掴み、何度も擦りつけろ」

ポリュカ

「射精するといい。お前の望むままに、私の体で……」

ポリュカ

「だって、その、だな……」

ポリュカ

「好きな相手になら、思う存分吐き出すことが出来るのだろう？」

ポリュカ

「今なら、どんなものでも受け止めてやる」

ポリュカ

「おいで？ 私で、気持ちよくなるといい」

ポリュカ

「んあ、んううっ……！」

ポリュカ

「んぐっ、はやっ、いつ、ああああ……！」

ポリュカ

「はっはっはっはっ、ああああああ……はあ、はあっ……！」

ポリュカ

「ナカに入れず、んう、擦りつけられる、だけなのにつ」

ポリュカ

「ふう、ふう……これ、もどかしいっ」

ポリュカ

「腹の奥が、甘く、うずくっ……子作りとは、違うのに」

ポリュカ

「はあ、あっ、ああああああっ……！」

ポリュカ

「ま、まるで、お前をのものと、わからされているような……」

ポリュカ

「んあっ、んっんっんっ、んううううう……！」

ポリュカ

「あっ、また大きくっ……出そう、なんだな？」

ポリュカ

「よし、いっぱい出せ、満足するまで精液全部っ」

ポリュカ

「ええっと、んっんっ、そうだな、んうう……！」

ポリュカ

「その、すっ、好き、だ……」

ポリュカ

「好き、好きだぞ……だから私に、たくさん精液くれっ」

ポリュカ

「んはっ、あああああああああ……！」

ポリュカ

「あっあっあっあっ、早く出せ、馬鹿者っ……んんううう！」

ポリュカ

「んあっ、うっ、ううううう……！」

ポリュカ

「ジンジン、するじゃないかっ……出せ、出せ出せ出せっ」

ポリュカ

「んうう！ んっんっんっんっ、バッカ……！ ま、待って」

ポリュカ

「んうううううううう……！ わ、私も、何か、くっ……るっ……！」

ポリュカ

「うっうっうっうっうっうっ、んぐうううう……！」

ポリュカ

「んうっ、んううううう……！」

ポリュカ

「イツ……けッ……！」

ポリュカ

「はあっ、あっ……！」

ポリュカ

「んっ……はああああ……すう、ふう……すう、ふう……」

ポリュカ

「んう、んっ……ふう、ふう……すうううう、ふうううう……」

ポリュカ

「ふう、ふう……すごいな、顎下までとんだぞ」

ポリュカ

「ああ、待て待て。そのまま動くな……んむう、ちゅ」

ポリュカ

「ちゅむ、んへえれえ……れるれるれろれるるうう……」

ポリュカ

「んむちゅ、出せて偉いなあ……んれるれるれるるう……」

ポリュカ

「んへえれえれえれえ……ちゅうううむ、にちゅにちゅにちゅにちゅ」

ポリュカ

「んえむ、じゅずるるるるるる……！」

ポリュカ

「んくっ、んくっ……んっんっんっ……ちゅばああ！」

ポリュカ

「ふう、ふう……ラブラブが、いいんだろう？」

ポリュカ

「なら、出した後はキスで労ってやらなければな」

ポリュカ

「こういうのは、嫌だったか？」

ポリュカ

「……ふふ。下半身は正直だったな」

ポリュカ

「よし、扉も開いたことだし、外に出る準備をしよう」

ポリュカ

「見ての通り、既に精液まみれだ」

ポリュカ

「温泉にでも入りたい気分なんだが……ん？」

ポリュカ

「私、が……何か……？」

ポリュカ

「……おい。あまり人の性器をジロジロ
見るんじゃないぞ」

ポリュカ

「私のが、濡れていたからなんだと言うんだ。生理現象だろうが」

ポリュカ

「もう全部終わった。次私に手を出したら、痛い目を見るぞ」

ポリュカ

「それでも私と、子作りしたいのか？」

ポリュカ

「……………はあ」

ポリュカ

「いいさ。こっちに来るといい」

ポリュカ

「私の負けだ。ラブラブえっちするぞ」

ポリュカ

「その代わり、途中で逃がさん。絶対にだ」

ポリュカ

「本気でお前に向き合ってやるから、お前も精根尽き果てるまで腰を振れ」

ポリュカ

「約束出来るなら、人間のように相手をしてやろう」

ポリュカ

「……おっ」

ポリュカ

「お前なあ……誰が返事代わりに勃起しろと言った……」

ポリュカ

「まあいい。こうなればどうとでもなれだ」

ポリュカ

「一度、恥ずかしげもなく愛しあってみる経験というのをするいい機会だしな」

ポリュカ

「私のことは……そうだな」

ポリュカ

「この部屋を出るまでは、ポリュカと呼べ」

ポリュカ

「それが恋人の証というわけだ。それで
いいな？」

ポリュカ

「うむ。安心して私を抱くといいさ」

ポリュカ

「今度はもうイジワルなんてしないよ。約束だ」

[トラック4終了]

//=====

//トラック5 魔族の本気の生ハメ交尾

//=====

ポリュカ

「これ、部屋にカメラとか隠されていないよな……見られてたりとか」

ポリュカ

「いや、恥ずかしいというよりも、身内に見られるのがしんどくてな……」

ポリュカ

「まあいい、やろう。今から私は、お前の恋人だ」

ポリュカ

「とは言っても、体に精液をかけられまくっているわけだが」

ポリュカ

「体を拭くところから始めた方がいいだろうか」

ポリュカ

「おっ、っと……」

ポリュカ

「もうやるのか？ 節操なしめ……」

ポリュカ

「んう、んっ……乳首触るなら、あまり強くしないでくれよ……」

ポリュカ

「痛いだけだから、んうっ……ふう、ふう……」

ポリュカ

「精液でヌルヌルするのが、もどかしくてたまらん」

ポリュカ

「ふあ、んっ……んんううう……ふう、ふう……」

ポリュカ

「あ、あああ……指でくにくに、弄られるのは構わない」

ポリュカ

「お前の相手をしてばかりで、体が敏感になってしまっとな」

ポリュカ

「まるで、んうっ……節操のない、変態のようだが」

ポリュカ

「意志とは関係なく、腰が、へこへこと動いてしまう」

ポリュカ

「お前のせいだぞ、馬鹿者……んう、うううう……」

ポリュカ

「はあ、はあ……どうした、精液を指ですくって」

ポリュカ

「私に、舐めさせるつもりか……？」

ポリュカ

「そっちは、口じゃなくて下半身……んうう！？」

ポリュカ

「んあ、あああああ……精液を、指ごと……ふう、ふう……」

ポリュカ

「私のナカに、入れる、なんてっ……」

ポリュカ

「ふう、ふううう……すう、ふう、ふうふう……」

ポリュカ

「私を孕ませようと、んっ……必死だな、お前」

ポリュカ

「だから、執拗に膣に精液を仕込まれても……んうう……！」

ポリュカ

「はあっ、はあっ……うぐっ、ううううう……！」

ポリュカ

「バカ、やめっ……んぐ！　うう、ふう、ふう……！」

ポリュカ

「はっ、はっ……指、速っ……うううううううう……！」

ポリュカ

「うっうっ、うっ、うううううっ……！　うう、うううう……！」

ポリュカ

「よせ、馬鹿者っ……う、ふううう……！」

ポリュカ

「うあっ、あっ……！　そ、それ以上動かすなっ」

ポリュカ

「私がイッても、仕方がないっ……んうううう……！」

ポリュカ

「……っ、はああ……はあ、はあ、ふう、んっ」

ポリュカ

「や、やめろ。そんなまじまじと、顔を覗き込んで」

ポリュカ

「そんなに私が情けない顔をしているのを見ていたいのか？」

ポリュカ

「いいから、お前はさっさと自分を気持ちよく、んむう！？」

ポリュカ

「んむっ、ちゅ……んんうううううう！？」

ポリュカ

「んむ、んううううう！ んっんっんっんっ、んうううう！」

ポリュカ

「んっんっ、ちゅうううううううううう……！」

ポリュカ

「ンハアッ！ あっあっあっあっ、バカバカ、コンのっ……！」

ポリュカ

「止め、ろッ……あっあっ、イカンッ」

ポリュカ

「うぐっ、避ける……うっうっ、出、出るうっ」

ポリュカ

「うっ、うううううううう……！」

ポリュカ

「うぐっ、ううううううう……！ うっ！ うっ！」

ポリュカ

「イツ、て……しまっ、た……」

ポリュカ

「ふう、ふう……情けない、こんなあ……はあ、はあ……」

ポリュカ

「だらしない姿を、さらけ出すことに、なろうとは」

ポリュカ

「この変態王国のせいか、それとも、お前の熱意に当てられたのか」

ポリュカ

「これほど、体を好き放題触らせるつもりはなかったんだが」

ポリュカ

「もうどうでもよくなってしまったよ」

ポリュカ

「んう、ちゅ……」

ポリュカ

「ふう……きちんとやるよ、恋人のように」

ポリュカ

「指でほぐして、準備は出来ているのだろう？」

ポリュカ

「お前のしたいようにするがいいさ。私を、その……」

ポリュカ

「は、孕ませる……つもりで、な」

ポリュカ

「って、うあっ!？」

ポリュカ

「ふ、ふふっ……私を押し倒すくらいの勢いはあったわけだ」

ポリュカ

「ふっ……ふっ……来るがいい」

ポリュカ

「その大きく腫れあがったモノで、私をどうするつもりだ？」

ポリュカ

「掌握、征服、凌辱……そういった、一方的な行為がお好みか？」

ポリュカ

「んう、ちゅっ」

ポリュカ

「ふうう……違うのだろう？」

ポリュカ

「いいぞ、ゆっくりと、確かめるように入れてみろ」

ポリュカ

「んうう、ううううっ……」

ポリュカ

「先っぽ、当たっただけでも、熱いな」

ポリュカ

「そのまま、腰をグッと押し入れるように……んう！」

ポリュカ

「んあ、ああああっ……ああ、入ってくるのが、わかる」

ポリュカ

「どうだ、セックスだぞ？ ふう、ふう……んうう！」

ポリュカ

「んう、折れるなっ……奥まで、こい……ッ！」

ポリュカ

「んうつ、くううううう……！」

ポリュカ

「ふう、ふう……これが、お望みのセックスというわけだ」

ポリュカ

「こんなに大きなモノで私を串刺しにした、罪は重いぞ？」

ポリュカ

「体を許すこと自体、本来はあり得ないと思ってもらわなければ困る」

ポリュカ

「……んうっ」

ポリュカ

「んっ、んんうう……こ、こらこら、撫でまわすなっ」

ポリュカ

「別に、辛くはない。この程度、なんとでも堪えられる」

ポリュカ

「それよりも射精できるように、腰を動かしたらどうだ」

ポリュカ

「大丈夫、大丈夫だ……私は痛がったりしないよ」

ポリュカ

「デスポリュカ様は、お前なんぞよりも丈夫なんだ。だからこそ——」

ポリュカ

「んああ、んうっ！」

ポリュカ

「ふうっ、ふっ……きゅ、急に腰を振るな、馬鹿者！」

ポリュカ

「くっ……さっき指でほじられたせいで、妙に敏感に……」

ポリュカ

「っ、んうっ、んっ、ふうっふうっ、うっうっうっ……！」

ポリュカ

「んっ、コイツっ……味わうみたいに、わざと速度を落としてっ」

ポリュカ

「んうっ、うううううううううう……！　うう、ううっ……！」

ポリュカ

「も、もどかしいだろう？　さっさと、射精してしまうがいいっ」

ポリュカ

「んあっ、んっ！　……このっ、私の反応を見ながら、小突く場所を確認してっ」

ポリュカ

「んうっ！？　んっんっんっんっ、んっんっんっ……！」

ポリュカ

「馬鹿者っ、乱暴にナカを叩いて、んっんっ、んうううう……！」

ポリュカ

「んっく……！　ふう、ふうっ、このっ、何度も弱いところをっ」

ポリュカ

「んあっ、あっ、んっんっんっんっ、んうううう……！」

ポリュカ

「んう、ふむううう！？」

ポリュカ

「むあっ、れるれるれるれる、じゅぞるるるるううっ」

ポリュカ

「ぷはあっ、苦しっ……んむうううう……れるれるれるれるう」

ポリュカ

「んへえれえれえれえれえ……ああむう、ちゅううう……」

ポリュカ

「ちゅぱっ！　ん、はあ、はあっはあっはああ……！」

ポリュカ

「あっ、あっあっあっあっ、やめっ、えああああああ……！」

ポリュカ

「あっあっ、んいつ！ いいあっ……ああああ……！」

ポリュカ

「はあ、はあっ、あっあっあっあっ、んう、んうううう……！」

ポリュカ

「も、もうやめ、やめてくれっ」

ポリュカ

「体が燃えるみたいに、熱いつ……っ、ああああああ！」

ポリュカ

「んう！？ んっんっんっんっんっんっんっ……！」

ポリュカ

「ばっかっ……！ 速っ、んっんっ、んうううううう！」

ポリュカ

「うっあっあっあっ、出るのかッ、出るなら、ナカに」

ポリュカ

「ふっふっふっふっ、うううううううううううう……！」

ポリュカ

「イケっ、イケっ……！ このままっ、ああああああ……！」

ポリュカ

「あっあっあっあっあっ、んうう！！」

ポリュカ

「んっ、ああああああ……はああ……はああ……」

ポリュカ

「ナカで、ふう、ふう……遠慮無しに、出して……」

ポリュカ

「しかも、んうっ……！ ま、まだ大きい」

ポリュカ

「すううう、はああああああああ……」

ポリュカ

「まだナカに出したいって、言わなくても伝わるぞ」

ポリュカ

「わかってる……指を絡めるように、私の手を握れ」

ポリュカ

「それで、抜かずにそのまま。私に耳を貸すといい」

ポリュカ

「すううううう……」

ポリュカ

「そんなに恋人のようにしたいなら、たくさん愛を言葉にしながら腰を振れ」

ポリュカ

「いいか？ このように、だ……」

ポリュカ

「んう、んっ、んっんっんっんっ、んっんっんんっ……！」

ポリュカ

「ふう、ふう、好きっ、好きだぞ～……んっんっ、んっんっ」

ポリュカ

「私のナカに、いくらでも、んっ、射精してみせろ」

ポリュカ

「そうすれば、んっんっ、万に一つでも、子どもが出来るかも……」

ポリュカ

「孕ませろ、んっんっ、私を、んううっ……ふう、ふう」

ポリュカ

「ぷっくり、膨らんだ腹に命が宿るのを見てみたいとは思わないか？」

ポリュカ

「ふう、ふううっ、お前の思う愛とは、子を宿すことではないか？」

ポリュカ

「はああ……はああ……いいぞ？ 愛を語らいながら、子作りだっ」

ポリュカ

「お前の雄々しくそそり立ったモノで、んう……私を、孕ませてくれ」

ポリュカ

「んあっ、あああっ……！ あっあっ、んっ、んううううう……！」

ポリュカ

「クソッ、情けない声が出て、しまう……んううっ」

ポリュカ

「んあ、あっ、んううう……！ んっんっんっんっ」

ポリュカ

「愛して、いるっ、うっうっ、好きだ、好き好き好き好きっ」

ポリュカ

「お前の子どもが欲しい、んっんっ、頼む、ナカに出してっ……」

ポリュカ

「んあっ、あっあっあっあっあっ、あああああっ……！」

ポリュカ

「ナカ、ピリピリしてっ……止まらなっ、あっあっあっあっあっ……！」

ポリュカ

「んう、ううううううううううううううう……！」

ポリュカ

「こんなに快感で、頭が満たされるのはっ……はあっはあっ」

ポリュカ

「は、初めてだっ……んぐっ、ううううううう……！」

ポリュカ

「ふうっ、ふうっ！ い、イクっ……お前に、イカされ、るっ」

ポリュカ

「ううううう、うつうつうつうつうつうつうつ……！」

ポリュカ

「うぐうっ！！」

ポリュカ

「うううううううううううううううう！！」

ポリュカ

「うつうつ、やめっ、止まれこのっ……ううううう！！」

ポリュカ

「早くうつ……うつうつうつ、出せっ、このっ……」

ポリュカ

「んああ、あっあっあっあっあっあっあっ、ああああ……！」

ポリュカ

「出、せ……！！」

ポリュカ

「んうううう！！」

ポリュカ

「んっ……ああああ……はあ、はあっ……はああ……」

ポリュカ

「射精、した、な……ふう、ふう……」

ポリュカ

「ナカ、締めるぞ。全部出せ」

ポリュカ

「んうっ……あっ……あはああ……ふう、ふう……」

ポリュカ

「ふう、ふう……クソッ、情けない声が出るっ」

ポリュカ

「こんなつもりでは、なかったのに……ふう、ふう……」

ポリュカ

「んうううう……！　ふう、ふう……んうううううう！」

ポリュカ

「ふううう……全部、出せたか？」

ポリュカ

「満足そうな顔をしているのが、この距離だとよく見える」

ポリュカ

「そうかそうか。よかったなあ、ラブラブで射精できて」

ポリュカ

「抜くぞ……んうっ、あっ……はああ……」

ポリュカ

「ほら、見えるか？」

ポリュカ

「抜いた途端、割れ目からお前の精液がボトボトと出てくるのが」

ポリュカ

「んあ……ああ……ふう、ふう……んんううう……」

ポリュカ

「指で、入り口を広げただけなのに、まだ出てくる……」

ポリュカ

「よほど私に種付けをしたかったんだな……お前……」

ポリュカ

「気持ちよかったか？ とても満足そうだな、その顔は」

ポリュカ

「あれほどねちっこい精液を出すほどに堪能したのなら、私もよかったよ」

ポリュカ

「……と、言いたいところなのだがなあ」

ポリュカ

「お前、なに勝手に満足して小さくしてるんだ？」

ポリュカ

「んっと……ふう……」

ポリュカ

「ほら見ろ。私の顔の半分ほどに小さくなって」

ポリュカ

「私に会いたくてここに来たんだから、こんなことで満足されても困るな」

ポリュカ

「ほら、舐めてやる……んえれえ……はあむう……ちゅ」

ポリュカ

「んむう、んっんっ、んむう、んっんっんっ……」

ポリュカ

「んむううう……ちゅううううううううう……んぱあっ」

ポリュカ

「お互いの汁が混ざり合って、粘っこいちんぽに……」

ポリュカ

「はあ、んむうう……」

ポリュカ

「んう、んっんっ、んっんっ、んくっ、んっんっんっ……」

ポリュカ

「んぐむう……じゅずっ、じゅずずずずずずずううう！」

ポリュカ

「んっんっんっんっ、んっんっんっんっ……！」

ポリュカ

「んっ……んっ……んちゅううう……じゅるるるるる！」

ポリュカ

「ちゅうううううう……ちゅばあああ」

ポリュカ

「ん、ふうううう……ふう、ふう……ほら、また大きくなったぞ？」

ポリュカ

「どうした、ラブラブえっちじゃないと抜けないんだろう？」

ポリュカ

「これからその性根が本物かどうか、試してやる」

ポリュカ

「私はお前を好きだと言った。お前もそうなんだろう？」

ポリュカ

「では、とことん射精させてやろう」

ポリュカ

「扉が開いたかどうかなど、もはやどうでもいいわ」

ポリュカ

「ほら、挿入るぞ……んうっ、んうううう……」

ポリュカ

「んぐっ！」

ポリュカ

「ふう、ふう……ほら、腰を振れ。さもないと私から……」

ポリュカ

「んぐっ！」

ポリュカ

「ふっ、ふっ……ふっふっ、ふっふっ……フッフ！」

ポリュカ

「ほらどうした、んっんっ、セックスできて嬉しいだろう？」

ポリュカ

「んっんっんっんっ、ほら、大好きな女とセックスしてるぞ～」

ポリュカ

「ふっふっふっふっ、んうっ……ほら、出せっ……締めるぞっ」

ポリュカ

「んっんっんっんっんっんっんっんっ……くうううう……！」

ポリュカ

「んっぐ、うう……！」

ポリュカ

「ふう、ふうう……すうう、ふうううう……んっ」

ポリュカ

「情けない顔だな、お前……」

ポリュカ

「好き同士の相手とでないと、射精できないんだろう？」

ポリュカ

「なら、もっと気合い入れて射精しろ」

ポリュカ

「それとも……一度射精した程度でお前の愛は冷めるのか？」

ポリュカ

「違うだろ。本気で愛すなら、んっ！ 報いて、みろ！」

ポリュカ

「んっんっんっ、んっ！！ っ、あ……」

ポリュカ

「また、出た……ん……もう充分とでも言いたげだな」

ポリュカ

「そうかそうか……もうおしまいにしたいか」

ポリュカ

「ダメだ。とことんまで愛して愛して、愛し尽くしてやろう」

ポリュカ

「コレはお前が始めたセックスだろう？ もっと楽しめ」

ポリュカ

「この国に来たことを後悔するくらいに、お前と愛しあってやるからな」

ポリュカ

「一滴も出なくなるまで搾り取ってやるから、覚悟するといい」

[トラック 5 終了]

//=====

//トラック6 ポリュカと最後のピロートーク

//=====

ポリュカ

「あの、ええっとだな……」

ポリュカ

「まあ、泣くな。男が精液搾り取られたくらいで」

ポリュカ

「加減を知らないだの、金玉がなくなったかと思っただの、
よくわからんことばかり口にして」

ポリュカ

「あんまり言うと、タマごと蹴り上げるぞ？」

ポリュカ

「すう、はああああ……いや、悪かったよ。仕返しにしてもやりすぎだった」

ポリュカ

「しかし、お前のおかげで当分はここに通わず済みそうだ」

ポリュカ

「もし次に来ることがあっても、アンジュにでも稼がせればいいだろ」

ポリュカ

「この部屋に通わせるのは……なんか、妙にのめり込みそうだから
やめさせるとして」

ポリュカ

「ん？ こんな国、用が済んだら出て行くに決まっているだろう」

ポリュカ

「というか、私はもうやる気にならん。腰から下が自分のモノではない気さえする」

ポリュカ

「気を張っていないと、ガクガク震えて醜態を晒すところだ」

ポリュカ

「それに……すんすん、すんすんすんっ」

ポリュカ

「……精液臭いしな。どこもかしこも」

ポリュカ

「歩けるうちに部屋を出て、そのまま風呂にでも入りに行くよ」

ポリュカ

「お前も達者でな。もう会うこともないだろう」

ポリュカ

「……ん」

ポリュカ

「そうだな。最後にこれだけは言っておくか」

ポリュカ

「もうここには来るなよ。ちゃんと愛すべき誰かを見つけれ」

ポリュカ

「お前の性癖は最低で最悪だったが、普通に結ばれる分には、
これほど誠実なものはない」

ポリュカ

「こんな国でなければ、お前はまともだよ」

ポリュカ

「それに、また私に見つかって拷問のように射精させ続けられるのは嫌だろう？」

ポリュカ

「だったら、なおのことここでお別れだ」

ポリュカ

「……ん？ すううう、はああああ……」

ポリュカ

「お前って奴は、本当に仕方がないな」

ポリュカ

「ほら、顔を貸せ。動くなよ……」

ポリュカ

「んう、ちゅっ」

ポリュカ

「ん……大丈夫、お前はまともなやつだよ」

ポリュカ

「ちゃんと好きな人を見つけて、幸せになるんだ」

ポリュカ

「私もお前が幸せに暮らせるように、世の中をなんとかしてやろう」

ポリュカ

「私が望むやり方にはなるかな？」

ポリュカ

「……なんでもない！ こちらの話だ」

ポリュカ

「とにかく、これに懲りたらこんな国来るなよ！」

ポリュカ

「私はもう二度とこの部屋を使わん。だから来ても会えんぞ」

ポリュカ

「次にどこか、また別の場所で会う機会があれば、それは初めましただ」

ポリュカ

「じゃあ、達者でな。お互い、目指すべきもののために」

[トラック 6 終了]

//=====

//【特典】寝てるポリュカと中出しえっち

//=====

ポリュカ

「すう……すう……すう……すう……」

ポリュカ

「んあ、あっ……んうううう……」

ポリュカ

「んう、んあ……あっ……ん……」

ポリュカ

「あっ……ああ……ん……んあう……うう……」

ポリュカ

「う……うう……ふう、あっ……ああ……」

ポリュカ

「んう、うううう……うう……う……」

ポリュカ

「んはっ……うっ、うっ……うっ……」

ポリュカ

「ふう、ふう……ふう、ふう……ん」

ポリュカ

「いっぱい、出して……満足か？」

ポリュカ

「私が、寝落ちするほどセックスして……ふあ、ああああ……あふう」

ポリュカ

「腰を振る感覚で、目を覚ましてしまったよ」

ポリュカ

「長い時間シていても、飽きないものだな」

ポリュカ

「ほら、キスしろ……んむう……」

ポリュカ

「んちゅ、ちゅむう……ん、んっ……ちゅ……」

ポリュカ

「ん、ふうう……」

ポリュカ

「それで？ またシ足りないってことか？」

ポリュカ

「いいぞ、別にナカに出したかったら」

ポリュカ

「んう、はあああ……ふう、ふう……」

ポリュカ

「でも、眠くてな……ふあ、ああああ……」

ポリュカ

「んう、ん……寝ている間に、使っていいぞ」

ポリュカ

「お尻掴んで……ほら、使え」

ポリュカ

「んう……じゃあ、好きなように……」

ポリュカ

「すう……すう……すう……すう……」

ポリュカ

「んっ……すう……ん、んっ……」

ポリュカ

「んあっ……んふう……すう、すう……」

ポリュカ

「んっ……んっ、んっ……んあ、あっ……」

ポリュカ

「んっ、んうううう……すう……すう……」

ポリュカ

「ふう、ふう……ふう、ふうっ……んっんんっ……」

ポリュカ

「んっんっ、んう……あっ、ふううう……」

ポリュカ

「ふあ、あっ……あっ……あっ、あっ……」

ポリュカ

「んっんっ……んうううううううう……」

ポリュカ

「んあっ……」

ポリュカ

「んっ……すう、すう……すう、すう……」

ポリュカ

「ん、んあ……えあえあ……れえれえ……」

ポリュカ

「はむう……れるれるれるう……むちゅうう……」

ポリュカ

「んへあ……ああ……んっ、ううう……」

ポリュカ

「すう……すう……すう……すう……」

ポリュカ

「んう、こらお前ら……いい加減、寝ろお……」

ポリュカ

「んう、んむんむ……すう……すう……」

ポリュカ

「んおっ」

ポリュカ

「んあ、あああ……んっんっ、んううう……」

ポリュカ

「すう、すう……んっ、ふうう……すう、すう……」

ポリュカ

「んあ、あっ……あああ……んっ、んっんっ、んううう……」

ポリュカ

「んうううう……うっうっうっうっ、うう……んうう……」

ポリュカ

「んっ……ふううう……！ ふっふっ、ふっふっ……」

ポリュカ

「すううう、ふうううう……んうう、はあああああ……」

ポリュカ

「んっあっあっあっあっあっあっ……あああうううう……」

ポリュカ

「んあっ……あっ……あっ……」

ポリュカ

「んっ、んううう……ふう……ふう……」

ポリュカ

「すう……すう……すう……すう……」

ポリュカ

「んむうっ、んへえれえれえ……れるれるれる、れええれええ……」

ポリュカ

「んあ、あああ……あ、んうううう……」

ポリュカ

「お、おい……顔べちょべちょになるまで、舐め回すなよ……」

ポリュカ

「ふあ、あああああああ……全身、汁まみれだ」

ポリュカ

「まったく、加減というモノを知らないんだな、お前」

ポリュカ

「まあいい。もうちょっと絞ってやらないとわからないだろうからな」

ポリュカ

「ほら、そのままされるがままでいろ」

ポリュカ

「んうっ、んっ！」

ポリュカ

「ふっふっ、ふっふっ、ほら、腰振っているぞ」

ポリュカ

「射精させる、んっ……！　ためだけに、んっ、腰を振っている」

ポリュカ

「ふっふっ、ふっふっ……ナカに出せよ、全部」

ポリュカ

「それがお前のっ、んっ！　役目なんだからなっ」

ポリュカ

「んあっ、んっんっんっんっ……いいぞ、膨らんできた」

ポリュカ

「出せ、出せっ……んっんっんっんっんっんっ」

ポリュカ

「んっ……んっ……」

ポリュカ

「ふう、ふう……んむう、ちゅ、んああ……口開けろ」

ポリュカ

「れるれるれるええれえれえ……ちゅうううううう……」

ポリュカ

「ふむうっ……んっんっ、んっんっ、れるれるれるれるう」

ポリュカ

「むちゅうううう……ちゅばああああ……」

ポリュカ

「ふう、ふう……ふう……ふう……」

ポリュカ

「まだ、抜かないぞ。ナカに入れたまま、大きくなるまで待っていてやる」

ポリュカ

「やり足りなくなったら腰を振れ。いいな？」

ポリュカ

「……ん？ どうした、疲れた顔をしているな」

ポリュカ

「お前が私とやりたくてたまらないと言っていたのに、か？」

ポリュカ

「ふっ、ワガママなやつめ」

ポリュカ

「疲れた顔をしながらも、まだまだ足りないだろう？」

ポリュカ

「少し眠るといい。私も……ふぁ、あああああ……あふう」

ポリュカ

「このまま休ませてもらう」

ポリュカ

「使いたくなったら、寝ている間も腰を振っていいぞ」

ポリュカ

「起きたら、また……ふぁっ、あああ……相手してやるからな……」

ポリュカ

「んう、ん……好きに……射精、し、ろ……」

ポリュカ

「すう……すう……すう……すう……」

[トラック7終了]